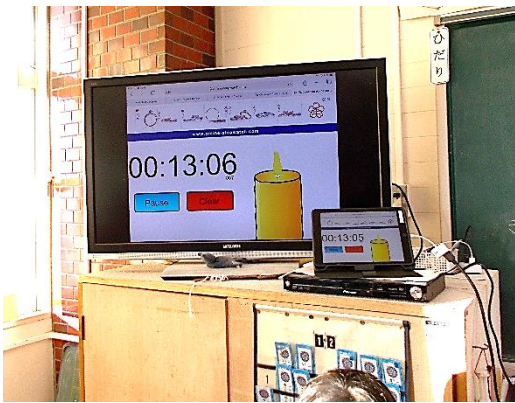


特別支援教育だより

石橋小学校 R4. 1月

石橋小学校では、「安心感と分かりやすさ」を合い言葉に学校全体で特別支援教育を進めています。通常の学級でもいろいろな取組がなされていますが、次にいくつかの例を紹介します。



各教室の前面の黒板には、タイマーがあります。「朝の支度はあと10分」「5分間考えてみよう」といった具合にタイマーで示すことで、時間を考えて行動したり集中して学習したりすることにつながっています。

また学級によっては、タブレットでろうそくが消えていく様子を示したり、ねずみがリンゴをかじる様子を示したりして児童の意欲を高めています。「ろうそくが消えちゃう！」と急いで支度ができるようになっていきます。

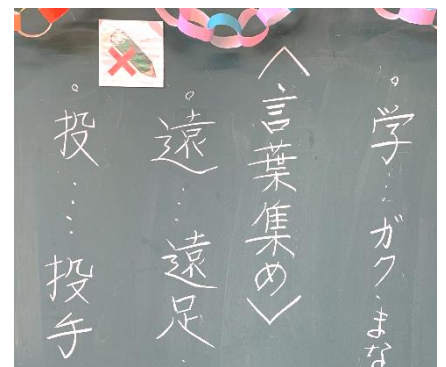
右の写真は、聞くことに集中させるために、聞いている子供のイラストを貼ったうちわを使って「今は聞く時間」と示しています。先生が話すたびに反応して話をしたくなくなってしまう子供たち。このうちわがあることで、注意を繰り返さなくても、静かに聞いて待つことができるようになってきました。



児童の理解を助けるために、視覚的な支援も心がけています。教科書を拡大して黒板に掲示したり、本を見せたりすることで、興味を引くとともに、今どこに注目したらよいのかがみんなで共有できるようになります。

デジタル教科書もテレビに写しています。「今、このページの2を勉強しているんだな」と聞き逃した場合も確認できます。

書くことが苦手な子には、鉛筆のマークで「板書のここだけは写そう」「ここは写さなくていいよ」と示しています。先生の話聞きながら書くことは、子供にとっては難しいことです。書くことに時間がかかって、肝心の話が聞けないのは残念です。また、書く場所を示すことで、「ここがポイント」と大切なことも分かってきます。



こうした配慮で、全ての子供たちが学習に参加できるように心がけています。